

ジャグパル

JugPal

2000年6月1日 第8号



特別寄稿

【ハンガーマンの全て】

by ハンガーマン

1. 『ハンガーマン』って...?

あまりプライベートなことには触れたくないのですが、簡単に言うと、ちょうど某喜劇団を辞めた頃に雑誌で見かけた"クラウン・カレッジ・ジャパン"の生徒募集に応募したということ。それがこの世界に入るきっかけでした。

俳優修行のひとつとして"クラウン"があるという予備知識くらいで、サーカスとの関連は知りませんでした。それをきっかけに『クラウン・ケンケン』が生まれ、やがて『ハンガーマン』へと進化したのでした。

『ハンガーマン』への変化は単純でした。

ある時、練習に飽きてボーッとしていると、針金ハンガーが眼につき、それを手にとってディアボロと一緒に遊び始めていたのです(新しいことや変なことを考えるって楽しいですよ)。

これはちょうどクラウン・メイクをしてジャグリングをするということに疑問を抱いていた頃だったので良いきっかけになりました。そこで、ハンガーを使った芸を考えつき、見事『ハンガーマン』誕生となる訳です。

ところで、僕は名前というものに深い意味を感じません。相手にとって分かりやすく、覚えやすければそれでよいと思います。名前は単なる記号の一つと考えます。

だからあなたが僕を何と呼ぼうと自由なのです。あなたにとって、僕とその名称があなた自身の中でつながってさえいれば僕は気にしません。

どうですか、『ハンガーマン』って分かりやすいでしょう~!!

2. 『ハンガーマン』の生きる道

ハンガーマンはいわゆる"大道芸"なるものをして生計を立てています。

最近日本ではパフォーマンスとしてちやほやされているようですが、イベントと違い"大道芸"は本当に根性を決めてやらないと芸も生活も成立しないと僕は思っています。何と言っても"路上生活者"ですから。



そのあたりは個々の考え方で違うと思うので深くは触れませんが、1996年から毎夏ヨーロッパで大道芸をするようになって、ますますその考えを強く持つようになりました。

ヨーロッパといっても、主にマドリッド(スペイン)の公園に10日間とアヴィニオン(フランス)の広場に3~4週間ぐらいの滞在ですが、もちろん勝手に行き勝手にやる大道芸で、何の許可も保証も無い。だから根性が必要なのです(内緒ですが、僕は不法労働、路上出稼ぎ生活者です)。

路上生活といっても野宿しながら大道芸を続けるといったことは無く、安ホテルを探して宿泊します。しかしアヴィニオンでは夏のフェスティバル期間中ということもあってどこも満室、そうでなくても高いのでここではキャンプ暮らしです。

4つ星のキャンプ場で持参のテントを芝生の上に張り生活します。

これが快適!

空は青いし木陰を吹く風の爽やかなこと。日中は日差しが強く暑いので、木陰で横になり空を眺めて過ごし、夕方6時ぐらいから大道芸を始め、12時過ぎまで数組交代で続けます。アヴィニオンではこんな生活が毎日続きます。

さて、ここの観客の反応はとても分かりやすいです。まずは観てみようとする人が多く集まってきましたが、自分の好みに合わなかったり芸人の技術的レベルや楽しませ方の程度が低かったりすると、さっさと帰ってしまいます。

そしてこれは路上での大道芸の歴史や習慣の違いなのでしょうが、観客は正面の方で地面に座る人が多いし、また積極的にその人の芸を楽しもうとしているように見えます。

でも外国人に興味を持つという点では日本と変わりはないようです。外国では僕は"自分は日本人である"と主張しながら芸を観せることを覚えました。これはどれだけ客を引きつけることができるかという点で、とても楽であると気づいたからです。

まあ、日本では散々喋りながらネタを観せているハンガーマンだが、外国ではいたって無口。

片言の英語(主に単語)だけでやっていますが、これも発音が悪く通じてはいないらしい。でもやっているネタは何も変えていない。もちろん衣装も。

だって僕は何処へ行っても『ハンガーマン』なのだ。もちろん変身もします。

そうそうネタの話で思い出した。

《エピソード》

マドリッドでのこと。ショーを始める前に練習と客集めを兼ねて小さなディアボロを高〜く上げていたのである。

その日はたまたま力の加減か風の悪戯かちょっとそれで後方へ飛んでしまった。そこには綺麗な花壇をバックに記念写真を撮ろうとしている年配の御一行。中年の男性が僕に背を向けカメラを構えシャッターを押そうとしている時にそれは起こった。

その小さなディアボロが彼のアタマの真上に見事に落ちたのである。正真正銘、頭の真ん中に当たって綺麗に上に飛び跳ねたのである。すぐに駆け寄り謝る僕。

が、その前に一瞬彼は両手を上げてファイティングポーズをとったではないか！そして転がるディアボロと謝る僕を見て笑って去っていった……

ウソではない。まぎれもない事実。彼は笑っていたのである。

《エピソード》

バルセロナでのこと。やはり小さなディアボロを高〜く上げたのだが……そこは閉鎖されたデパートの前だった。高く上がったのは良かったが、屋上まで飛んでいってしまい戻らぬままになってしまった。

悲しみの中でショーも終え、片づけていると一人の青年が近づいてきてチップをくれた。そして「俺はこの建物の警備員で、今この隙間からお前を観ていて面白かった」と言うではないか。

何と後ろの壊れかけた扉のほんの小さい穴から覗いていた人がいたのだ。さらにわざわざチップを入れに来てくれるなんて、と驚いている僕の頭をふとある考えがよぎった。

彼にディアボロを取ってきて貰えないかと尋ねてみたのである。すると彼は次の日自分は休みだから同僚に頼んでおいてやる。明日同時刻にここへ来いと約束してくれた。

文章にしてしまえば簡単で何て事はない話のようだが、そこはスペイン人と日本人、お互いともに英語が話せず何を伝えたいのかわからない。うまく話がまとまるまでの長かったこと。

そしてこの人達を信用して良いのか不安でもあったが、彼の言った通りになり、一晩たってから僕の手元にディアボロは返ってきたのである。

この時はホント嬉しかった！

ちょうどバルセロナでの大道芸がうまくいわずに落ち込んでいた時だけに"この街も棄てたもんじゃないな"と思っただのだが、それ以来バルセロナは一度も行っていない。だってバルセロナは本当に僕にとって芸のやりにくい街だったのだ。

外国ではこのように芸人に対しては大抵優しく、怖い思いなどしたことはないけれど、マドリッドで僕のショーを観ていた日本の若者達と世間話をして、別れた10分後にその公園の中で彼らはギャングに遭って荷物を全部取られたそうだ。

そこでは常にポリスマンが何人も巡回していて、大道芸をやっている僕の後ろから遠巻きに観ている時もあったのだが、のんびりとした平和な公園だとずっと思っていた僕って……

3. 『ハンガーマン』的笑いの道

"人は何故、どういう時に笑うのか"について考えたことがありますか？または笑いの種類についてなど。

僕は専門家ではないので細かなことは略しますが、自分が大道芸でやっている"笑い"はごくごく単純で分かりやすいものです。

それは自分を相手より下に置くことです。人間は残酷なもので優越感を持った時にも笑います。だからハンガーマンは失敗の連続でバカでマヌケな存在になるように演出しているのです。

特に子供達が喜びますが、それだけではありません。そこで彼らが出来ないことをハンガーマンがやると驚きは何倍にもなるって寸法さ！

ギャップです。
"まさか、この人がこんなことを……"なんて思わせることが出来たら成功です。

さらに観客の考えの先を行かなければいけません。

想像を超えた見たこともないおバカな芸や難しい芸により、笑いや驚きを倍増させることが出来るのです。アクシデントも決まったポイントで自分で起こします。バレないように。そして自分で驚くのです。

ここで言うっておかなければならないのは、僕はジャグラーだとは思っていません。ジャグリングを使って笑いを創る人、芸人です。

ジャグリングは観客に笑いを提供するための道具の一つです。ジャグリングの技術を観せたい訳ではないのです。楽しいことをやりたいだけです。

ただ、生活を支えるにはジャグリングは必要不可欠ですがね……また楽しいことをするためにはまず自分が楽しむことが一番大事であると思います。

楽しそうに演じている姿を観て観客も楽しむことが出来ると思います。本当にやっている本人も観ている観客も楽しいショーは年に一回できるかどうかですが、そんなことがあるからこの仕事は辞められなくなるのです。

外国でも同じです。
言葉が通じなくても本人が楽しんでいるか否かは観客は感じ取ることができます。
そしてその本人のキャラクタがはっきり分かれば、習慣や環境の違いにより笑いの大小はありますが、笑うポイントは同じです。

僕が考えるキャラクタとは無理に創り上げたものではなく、何度も人前で演じている間にできあがってくるものだと思います。

自分本来の性格に近くて演じやすいです。
強引に頭の中で作ったものはどことなく白々しさを感じます。
もちろんそれで成立する芸人もいます。

その人達は天才です。
僕よりもっと高度な技術を知っています。
普通の人々にとって経験が一番の武器です。とにかくたくさん人前で演ずることが成長の近道です。

ハンガーマンのショーは6年前から始め、年間300回以上ずっと同じ内容でやっています。
もちろん細かい部分は変わっていますが、ほぼ同じです。
どうせ一生懸命練習するなら、ショーとして人前でやりましょう。

たまには誉めてくれますよ。それはとても気持ち良いことだから、人は上手くなるのです。

面白いかなかは観客が判断することです。
そんなことはどうでもよいこと、好き嫌いは誰にでもあります。自分が楽しくやれば、必ず何人かには伝わります。

あなたは一輪車に乗ってディアボロを2個、片手で操る人を観たことがありますか？これはすごい技術です。
でもこの時大道芸としては成立していなかったのです。
本当の練習みたいで技術の羅列、ほとんど失敗はしません。

今3個のディアボロを練習していると彼は言っていました。より高度な技に挑戦するジャグラーの正しい姿勢です。

でも大道芸でそれほどの技術だけ観て楽しいでしょうか？
楽しいと思う人もいますが、僕は違う部分が観てみたいのです。

失敗して慌てている様、何とか取り繕おうとしている様子や平静を装っている姿の何と面白いことか、そんなところからその人のキャラクタが見えてくるのです。

真剣な表情で"ハンガーマン"と叫ぶ姿、さらには変身まで見せられたらバカバカしすぎて、笑うしかないでしょう。

変身しろとは言いませんが、キャラクタとはそんなものではないでしょうか。

偶然に出会った観客と芸人、わずか20~30分の間、お互い楽しければそれで良いのではないかと、楽しみましょう、観客も芸人も。
強いて言えば外国と日本の違いはそこです。
積極的に楽しもうとする気持ちを観客が普通に持っているか否かです。

4. 『ハンガーマン』の肉

よく人に筋肉のついた体に関して質問されますが、単にこれは体質です。
遺伝子のおかげで両親には感謝しています。

毎日25kgぐらいの道具を持って大道芸に出かけますが、特別なトレーニングなどはしていません。
ハンガーマンはとても怠け者ですから。

若いときに力仕事のアルバイトを一杯やった経験はあります。



特に引越しのアルバイトは筋肉を付けるのに最適でした。
洗濯機はもちろん1ドアの冷蔵庫は1人で持って階段を走るのが基本でした。

ただ個人的には客に観られる仕事ですから、それ相応の身体能力を維持していなければならないと考えています。

またジャグリングに適した筋肉というのは、あると思いますが、それは日頃の練習で作られていけばよいのではないのでしょうか。

こんな話を聞いたことがあります。

ヨーロッパの若いジャグラーが兵役のため1年ほど入隊し、その厳しい訓練で以前より筋肉がつき、たくましくなって戻ってきた時に、その筋肉が邪魔して思うようにジャグリングが出来なくなってしまったという話です。皮肉な出来事ですね。

以上、本当に私的な考えや経験を書いてきましたが、このような機会を下さった安部さんには感謝しています。

これからは若い人達の時代です。僕のこんな文章を読み何か少しでも参考になれば幸いです。
もっと面白いこと、楽しいことを考えて実践して下さい。若い世代に期待しています！！

何か別の意見、質問がありましたら是非聞かせて下さい。ハンガーマンはちょっとシャイですが、怖くないです。

《おわりに :安部保範》

私にとって彼のイメージは、家をいったん出たら日が暮れても戻らずに、野山を駆け海川に潜り、好奇心旺盛・探検好きで、母親をいつも心配させている"やんちゃ坊主"といったところでしょうか。

パフォーマンスでは、(本当は上手いんですけど)上手いのか下手なのか、その演出に観ている方はハラハラして、思わず腹の中で「頑張れ！」と声をかけるなんてまさに親の気分です。

また映画、クラウン、サーカス等、各種アート公演のいたるところで観客としての彼と遭遇するのは、彼の好奇心の旺盛さと勉強の熱心さを表しているように思えます。

今回彼にはたくさん質問をし、そのうち幾つかに答えていただければ結構ですよとお願いしていたのですが、律儀にも私の質問全てに答える内容の文章をいただき感激しました。

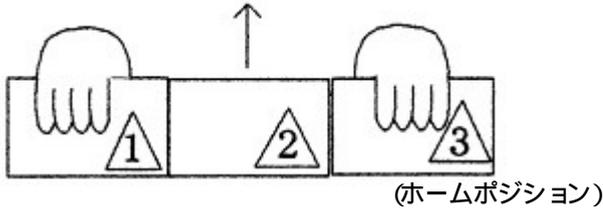
しかも速達で届けられた原稿は、何と手書き文字で便箋9枚の大作！
読みながらの作業は面白く、一気にパソコン入力してしまいました。(従って誤字脱字があれば、作業した私のミスです)



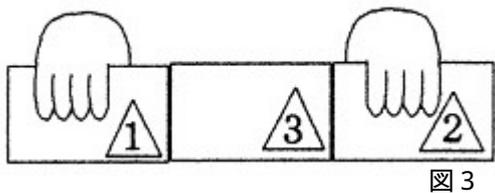
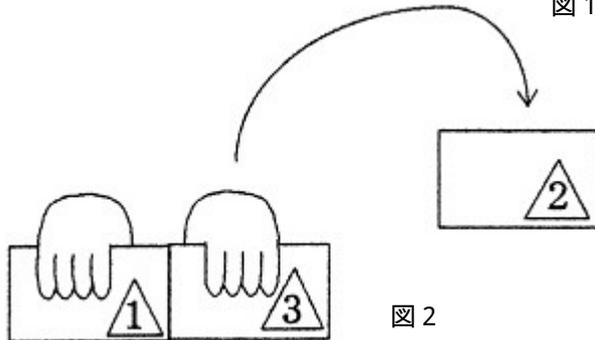
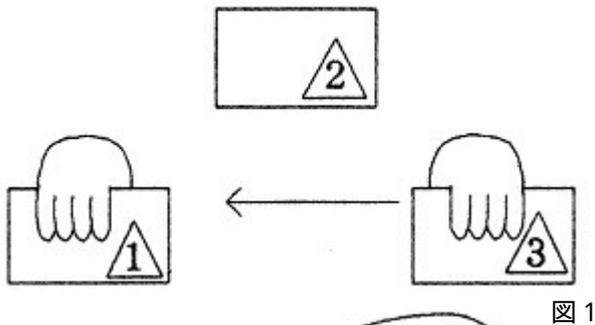
シガーボックス講座～その3～【石川健三郎 さん】

さて、今回は見た目は簡単だけど、やってみると結構手強いワザを紹介します！

Step 9 プレイス オン (Place Ons)

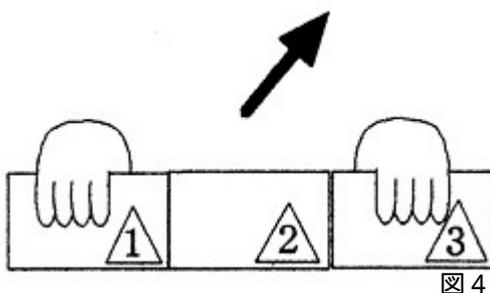


真ん中の箱 2 を上に持ち上げ離し (図 1)、その間に 3 の箱を 1 の箱につけ (図 2)、3 の手を離して 2 の箱を取り (図 3)、ホームポジションへ。

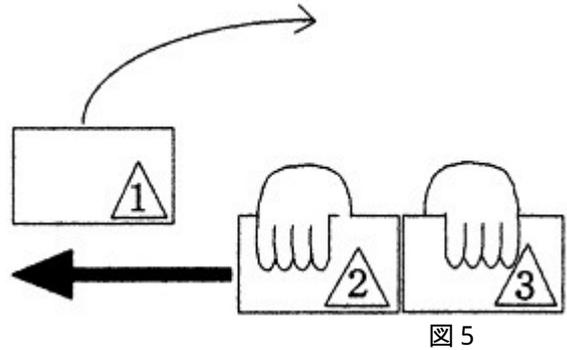


このワザも左右の手で出来ます。コツとしては 3 の箱を 1 につけたと同時にもう一度箱を引き上げます。

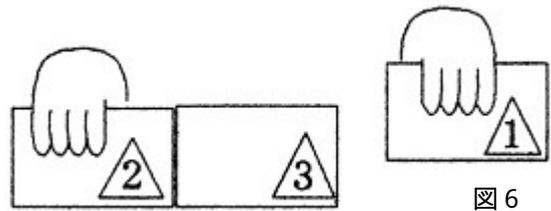
【バリエーション: 端の箱を離す】
まず、ホームポジションから、箱 3 個をやや左側に引き上げると同時に右手で 2 の箱を掴み (1 の箱を浮かせます) (図 4)。



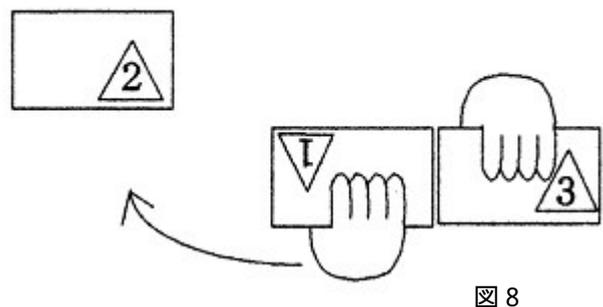
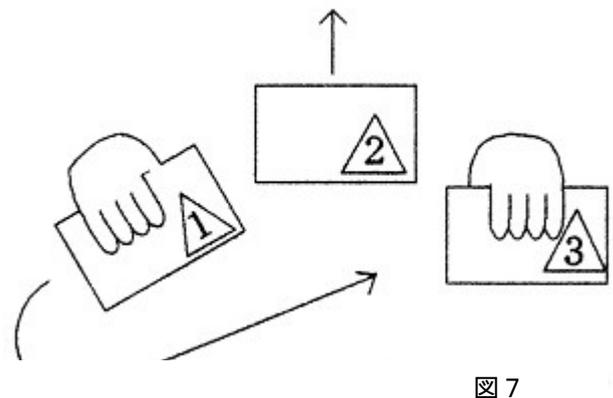
そのまま左手で右側に押し引き上げる (様な感じ) (図 5)
1 の箱の位置に注目。右側から左側になる。



1 の箱を左手で掴み、左端に持ってくる (図 6)
コツは 2 度目の引き上げる時に左手でしっかり右側に押しながら引き上げること。



【バリエーション: 回転をさせる】
ホームポジションから真ん中 2 の箱を真上に持ち上げ、1 の箱を手を 180 度回転させ (図 7)、3 の箱につけ 1 の手を離して (図 8)、2 の箱を掴み 180 度回転させる (図 9)



Step10 タンブルアンドスロウ (Tumble and Throw)

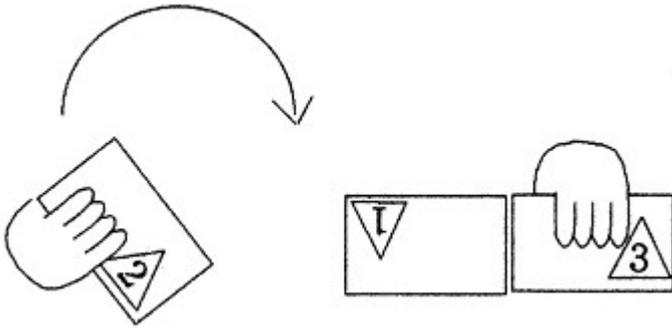
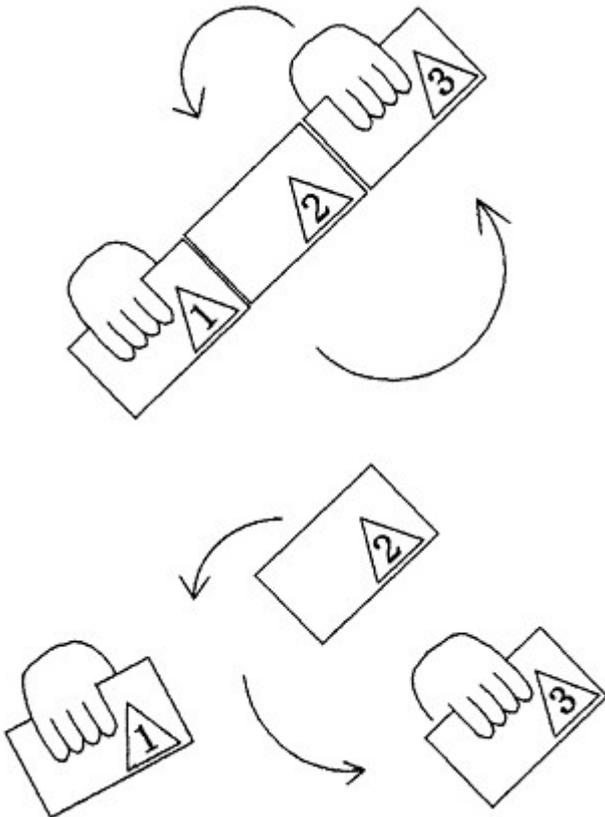


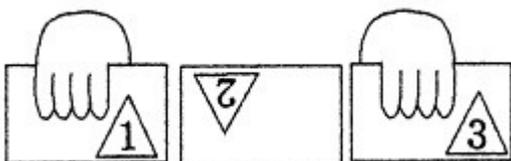
図9

さて、次は以前紹介した、タンブルの応用編です。まずはタンブルのおさらいです。

3個の箱を傾けながら左手で真ん中2の箱を掴む。この時に3の箱を回転させ真ん中に持ってくる。

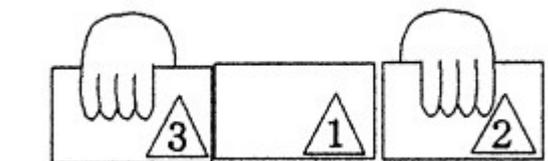
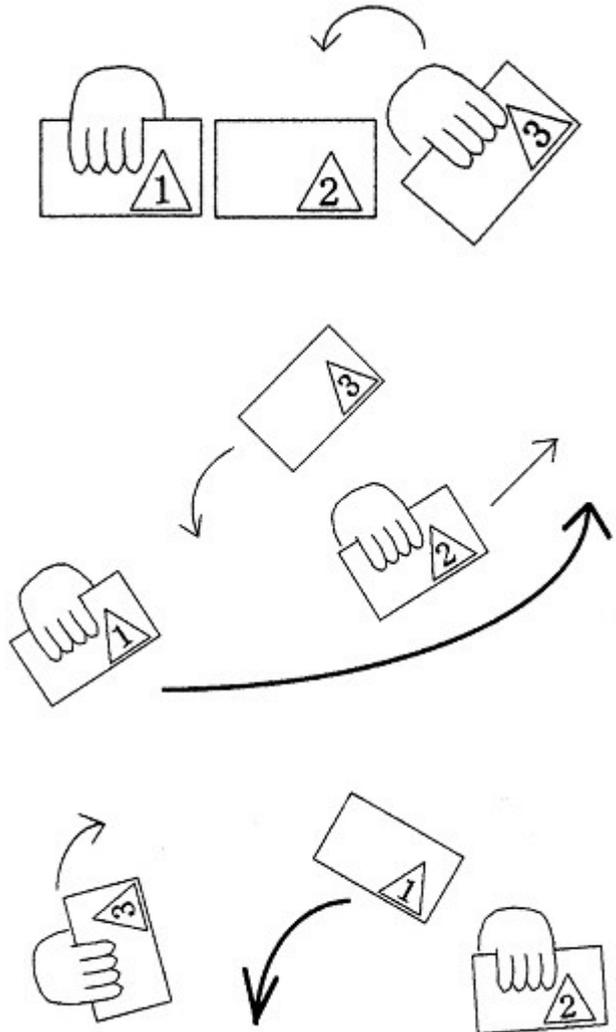


終わり方はこのようになります。これをふまえて…次は。



右左どちらかがやりやすい、やりにくい手があると思います。今回は私がやりやすいと感じている左手から紹介します。皆さんも左右試してみて、どちらがやりやすいか見つけて下さい。

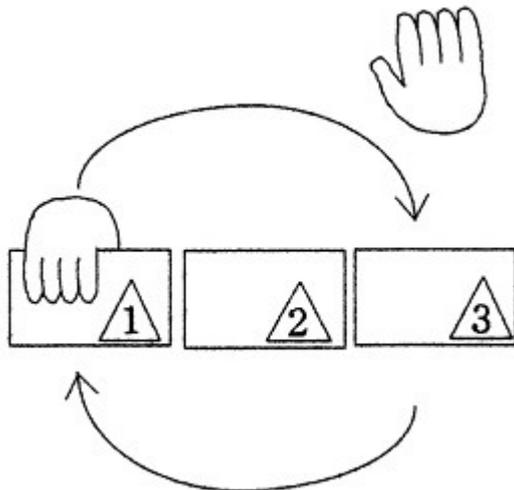
ホームポジションからのタンブルでの左手で3の箱を回転させながら、真ん中の箱を左手で掴むところまでは一緒ですが、それから空いている右手の箱を下から左側に回転させながら投げます。終わり方は1の箱が真ん中で終わります。



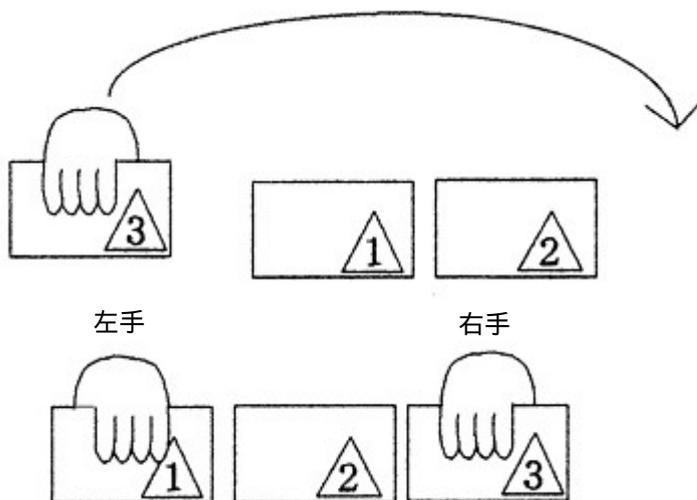
このワザも左右できます。回転させる力加減に注意しよう。

Step11 エンドラウンドトゥクロスハンド (End Round to Crossed Hands)

さあ、今回最後に紹介するワザはスピード感に溢れたワザです。
ホームポジションから全部の箱を引き上げ、右手で左手の箱3を取りそのまま2と1の箱の下を通り、



上も通り、3が元にあった場所まで持ってくる。左手は交差して1の箱を掴み腕は交差して終わる。



このワザも左右できるので練習しよう。

シガーボックスのコツは箱から手を離すときはゆっくりと確実に。
箱が前後上下左右にしか回転しないようにすること。
箱から手を離してから次の動作に移ること。そうしないで箱から手を離しながら次の動作に移ってしまうと、箱が回転してしまうことが多い。
箱を引き上げ/手を離して/次の箱を掴む。といったように全ての動作を切り放すことが大切です。



最後に耳寄りな情報・・・
シガーボックスをもっと勉強したい! という人のためにオススメのビデオを紹介します。
ブライアン・パッツのビデオです。デユベなどでも購入可能です。値段も\$19.95とお手頃で、内容はかなり充実しています。
機会があれば購入を検討してみては?

[石川 健三郎 <kenchan2@gol.com>]



高橋さとみさんから、また魅惑的なイラストをいただきました。ありがとうございます。
(シガーボックスと・・・ローラボールもありますネ!)



サークル紹介

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は「大阪大学ジャグリングサークル Patio」の紹介です。

また日本ジャグリング協会のジャグリングクラブ紹介のページ<<http://www.juggling.gr.jp/>>にも国内の多くのクラブが紹介されています。

大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)・・・本号にて紹介

<<http://hb3.seikyounet.jp/home/morisan/patio/>>

京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・7号にて紹介

<<http://juggling-donuts.org>>

福岡ジャグリングクラブ FJC (福岡)・・・6号にて紹介

<<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/~ooshige/Juggling/>>

筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会

筑駒Jugglers (東京)・・・5号にて紹介

<<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>>

所沢ジャグリングクラブ JUGFLY (埼玉)・・・4号にて紹介

<http://www2c.airnet.ne.jp/ichiro_t/juggling/jugfly/>

綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号にて紹介

<<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>>

ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号にて紹介

<<http://user.ecc.u-tokyo.ac.jp/~g940656/>>

ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号にて紹介

札幌ジャグリングクラブ (北海道)

<<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/2690>>

ジャグリングクラブ tossLife (東京都板橋区)

<<http://www.naranja.co.jp/tosslife/>>

ジャグリング友の会 (東京都練馬区)

<<http://www.hi-ro.com/sin/>>

横浜大道芸倶楽部 YDC (神奈川)

<<http://www.01.246.ne.jp/~yuji-k/>>

市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)

<<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>>

静岡大道芸サークル WAPS (静岡)

<<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/tomi/waps/>>

New Japan Juggling Club (愛知)

<<http://www.cc.utah.edu/~nhf13960/>>

福井ジャグリングチーム FJT (福井)

<<http://bishop.fuis.fukui-u.ac.jp/~nishio/fjt/>>

大津ジャグリングクラブ (滋賀)

<http://www.biwa.ne.jp/~torisan/fr_juggling.htm>

【大阪大学ジャグリングサークル Patio(パティオ)】

パティオは1998年に大阪大学の学生数人が大学構内の中庭でジャグリングを練習していたところから発足しました。

「Patio (中庭)」という名前はそこから由来しています。

はじめの頃は大学の授業がある日の昼休みだけの練習でしたが、人数が集まるにつれ土日にも近くの公民館で部屋を借りて練習をしたりパフォーマンスコンテストに出場したりと、活発に活動するようになっています。

サークルのメンバー

現在主なメンバーは大阪大学の学生ですが、学生に限らず、また年齢を問わず幅広くメンバーを募集しています。

部費もありませんし、特別な手続きも必要ありません。

活動内容

普段の昼休みの練習に加えて、毎週ではありませんが土日に近くの公民館で練習をしています。(詳しい練習日はホームページを御覧になれるか直接お問い合わせ下さい)

西南公民館 :大阪府箕面市瀬川3-2-5 (阪急宝塚線石橋駅から徒歩15分)

練習の成果の主な発表の場として、毎年5月と11月にある大阪大学の大学祭でストリートパフォーマンスを披露しています。

最近では技のレベルも高くなってきており、パフォーマンスの評判も上々です。

サークルの雰囲気

パティオでは練習は個人の自由参加となっており、皆自分の都合にあわせて練習しています。アットホームな雰囲気で楽しく練習しており、練習の最後には全員でゲームをしたりします。



パティオのホームページ

WebSite :

<<http://hb3.seikyounet.jp/home/morisan/patio/>>

土日の練習日など、最新の情報はホームページを御覧いただければわかります。また、それ以外にも役に立つ情報や面白い企画をどんどん更新していく予定です。ぜひ御覧下さい。

連絡先

森俊行までお願いします。

E-mail :<morisan@mb3.seikyounet.jp>

Tel&Fax :0726-76-3978

[森 俊行 <morisan@mb3.seikyounet.jp>]

9 リポート

【所沢市民文化フェアリポート】

平成12年4月8日(土)、9日(日)に、埼玉県所沢市航空記念公園内で、「所沢市民文化フェア」が開催されました。

この催しを簡単に説明すると、理念は所沢の文化に触れようというものです。

しかし実際の内容は所沢市民によるお祭りみたいなものです。多少は所沢の文化らしき催しもありますが、それほど重要視はしていないようです。

私自身は2年前から、そして所沢ジャグリングクラブとしては去年からこの催しものに参加していますが、去年はジャグリングクラブを創設してすぐだったこともあり、パフォーマンスを行ったのは所沢ジャグリングクラブでは私だけで、あとは「バルーンモデリング教室」を開催しました。

今年は去年同様「バルーン教室」を開催しましたが、その他所沢ジャグリングクラブから9人のパフォーマーが芸を初めて披露しました。

- ・クラウンししょう <ジャグリングマジック> (中村さん)
- ・ふうせん屋 <バルーンモデリング> (古恵良さん、瀬在さん)
- ・所沢ジャグリングクラブ2軍
<ヨーヨー、ディアボロ、ジャグリング> (小澤さん、他5人)
- ・筑駒 jugglers A (約10名)
- ・筑駒 jugglers B (約10名)

以下に出演してくれたメンバー自身による感想を掲載します。

中村さん (ジャグリングマジック/パントマイム)

まずは路上 (だけでは無いでしょうが) で演じるに必要なものは、自分が何の為にここで演じているのか? Jugglingをやっている、自分が楽しいと思っているこの気持ちをお客さんと共有できるからでは?

その気持ちが大きかった1回目と、上手<やろうとした2回目>とのそれぞれのお客さんとの間の空気が全てを物語っていると思います。

それと体力! これがないとだめですね。予想以上の体力の消耗が激しかったです。(2回目はドロップがかなりありました。)やはり何時間の練習よりも本番30分は色々学ぶべきものが多いですね。改めてプロの凄さがわかりました。

瀬在さん (バルーン)

お花見日の中、昨年同様「バルーン教室」で所沢市民文化フェアに参加しました。今年は教室だけでなくパフォーマンスでの参加もあったので、去年とは違って初日はかなり緊張しました。

2日間で3回パフォーマンスを行いました。思っていた以上に人が集まっていたのでびっくりしました。子供だけでなく大人も含めて興味があるのだな...と改めて実感しました。

しかし、パフォーマンスという観点からみると、バルーンだけである程度の時間をもちたせるには、見せ方・構成の仕方をかなり練る必要があると感じました。

今後は、見せる事も考えてレパートリーを増やし、今後につなげていく必要があると思いました。



古恵良さん (バルーン)

初めてのバルーンパフォーマンスでしたが、見ていてくれた子供達の風船欲しい!! という気迫&パワーに驚きました。

風船がもらえても、もらえなくても楽しんでいただけるようなパフォーマンスを目指して、これからも練習していこうと思います。

小澤さん (ヨーヨー)

もっと構成としゃべりを考えておくべきだった。でも、とても楽しかった。しかし今度やるときはそれほどお金目当てではなく、お客さんを楽しませることを考えてやりたいと思う。

今年は各パフォーマーの持ち時間30分にして、きちんとタイムスケジュールを組んでパフォーマンスを行いました。

私(土田)自身いままではパフォーマーとして、自分の時間になったら芸を披露していたのでそんなに責任はなかったのですが、今回イベントの仕切りを初めてやったのでいろいろ大変なことがありました。この経験は自分にとって、とてもいい勉強になったと思います。

パフォーマンスは2日間で14回行いましたが、平均150人ぐらいの観客は見ていたと思います。観客の顔を見ていましたが皆さん楽しんでくれたようでほっとしました。

今年は9人+筑駒でしたが、来年はよりたくさんの方がパフォーマンスをできるようになればもっと面白いことができるのではないかと考えています。興味のある方は私までご連絡下さい。

[土田 一郎 (所沢ジャグリングクラブ)]

<ichiro@as.airnet.ne.jp>



書籍紹介

【Cowboy Fun】

書名 :Cowboy Fun
 著者 :Frank Dean
 発行 :Wild West Arts Club
 価格 :\$24.95
 ページ :144p.
 ISBN :0-9640746-8-0

内容

Wild West Art (以下ワイルドウェスト)とは、1800年代後半に曲馬的なサーカスの一つの流れとして、屋外でカウボーイ、インディアン、斥候、それに馬やバッファロー等を集めての西部芝居が人気を博しましたが、そのスペクタクルショーのことを元来は表しています。

そこで披露された数々の技(演技)はショーアップされ、西部劇映画やサーカス等では欠かせないお馴染みのものばかりです。

大道芸フェスティバルでもロープやムチの演技は見かけることがあります。

ロープは、腕をグルグルと回しながら投げ縄で自由自在に輪を作ったり、アクロパティックな動きでその輪をくぐり抜けたりと、見るからにハードな演目です。(王健さんが卓越した演技を見せてくれます。)

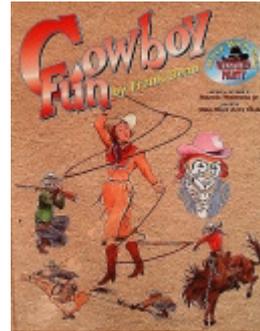
またムチでは、手に何か小さな物を持たせたアシスタントを遠く離れたところに立たせ、ムチをひと振りして打ち落とすといったスリリングな演技を見かけます。

この本はそんなワイルドウェストに魅せられた愛好者の団体であるWild West Arts Club (以下WWAC) <<http://www.wwac.com/>>から発刊されたもので、ワイルドウェストとはなんぞや、という方には最適な本です。

各演目毎に歴史、名人伝、数々の技(トリック)の紹介等が解説され、200以上もの写真と図が添えられています。

目次

- Trick and Fancy Riding
馬の曲乗り
- Rope Fun
投げ縄の演技
- Fast Draw, Gun Spinning, & Fancy Shooting
銃の早撃ち、銃をガンベルトに納める際の銃の曲芸、銃の曲撃ち
- Whip Cracking
ムチの演技
- Knife & Tomahawk Throwing
ナイフやまさかりの曲投げ
- Cowboy Clowns
ロデオ大会等で見かけるカウボーイ・クラウン(道化師)の紹介
- Western Parties & Cowboy Gatherings
愛好者によるパーティ開催ノウハウや関連団体の連絡先紹介
- A Cowboy's Tricks and Tips
幾つかの技(トリック)に関する解説



購入

ワイルドウェスト関連グッズの購入でしたらMark Allen Productionsがお薦めです。(この本もここで購入できます)

ワイルドウェストで使うロープ、ムチ、モデルガン、ナイフ、あるいはそれらアクセサリ類が豊富にそろっています。また教本、教則ビデオ、鑑賞用ビデオも各種そろっていて、私のように実際にトリックを演じない人でもビデオ等は眺めているだけでも楽しいです。

Web上のオンラインカタログも良いのですが、紙のカタログも請求すれば送ってくれます。

このお店からは書籍、ビデオ等何点か購入していますが、対応も良く安心して購入できます。ちなみにMark AllenはWWACの会長でもあります。

Mark Allen Productions
 3750 S.Valley View #14
 Las Vegas,NV 89103 U.S.A.
 Tel :702-873-1100
 Fax :702-873-0216
 WebSite :<<http://www.mark-allen.com/>>
 E-Mail :<mallen1946@aol.com>

日本ではパフォーミングアートという視点からのWebサイトは無いようですが、ウェスタンファンっていうのは多いですね。

Wide West Web
 西部劇とその歴史・背景など関連項目を紹介する西部劇専門サイト
 <<http://homepage1.nifty.com/widewestweb/>>

Fast Draw Club
 スポーツとしてのファストドロウを紹介するサイト
 <<http://www.hello.co.jp/~fastdraw/>>

沖縄ブルライディング協会(OBRA) 公式サイト
 スポーツとしてのブルライディングおよびその他のロデオの開催・支援を行う団体のサイト
 <<http://www1.neweb.ne.jp/wb/obra/>>

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]



必 読

【火の用心！】

この23年のジャグリング人口の増加には目をみはるものがあり喜ばしいことです。ある程度ジャグリングがうまくなってきて人にも見せるようになってくると、火のついたトーチを使ってもっと観客にアピールしたい、拍手をもらいたいという気持ちが出てくると思います。実際、トーチは観客のうけも良いし、やっつけても楽しいものです。

でも、ちょっと待ってください。安全面は大丈夫ですか？ジャグリング人口が増え、それにしただって火を使う人が増えれば、事故が起きる確率も高くなります。

もし、日本のどこかで誰かが事故を起こし、たまたま運悪く新聞沙汰にでもなれば、事故を起こした本人が困るだけでなく、ジャグリングや大道芸の世界すべてにマイナスの影響が及びます。

そのようなことを防ぐためには、皆が安全のための知識を持ち、十分な準備と配慮をすることが大事です。

その助けになればと思い、火を使う上での注意をまとめてみました。火を使った経験のある人もない人も、ちょっと目を通してみてください。

《燃料について》

ガソリンは絶対に避けましょう。

ガソリンは、原油を蒸留して低い温度で蒸発する成分を集めたものです。ガソリンは常温でも常に蒸発を続けており、ガソリンの周囲にはガソリンの蒸気が空気と混ざり合って漂っています。

そこへ火のついたものを近づければ、あっという間に引火して爆発的に燃えます（だから、車の燃料に使えるのです）。

ガソリンをトーチの燃料として用いるのは絶対にやめましょう。同様に揮発油である塗装用シンナー、トルエン、ベンジンなども使ってはいけません。

人の言葉遣いというものはけっこういかに減なもので、燃料なら何でもガソリンと呼んでしまう傾向があり、新聞や雑誌にもその傾向があります。そのような情報を鵜呑みにしてガソリンを使わないようにしてください。

ジャグリングのトーチの燃料としては、家庭で石油ストーブなどに使う灯油を使うのが一般的です。灯油はガソリンより蒸発しにくく、引火もしにくく、ずっと安全です（もちろん、十分な注意が必要であることは言うまでもありません）。

「灯油は黒い煙が出て汚れる」という理由で、登山用携帯コンロの燃料（通称：白ガス、ホワイトガソリン）を使う人もいます。

しかし、携帯コンロ用の燃料の主成分はナフサであり、ガソリンほどではないとはいえ、灯油よりもずっと蒸発しやすく引火もしやすいのでより注意が必要です。

ちなみに、灯油の呼び名は同じ英語でもイギリスとアメリカで違い、イギリスではパラフィン paraffin、アメリカではケロシン kerosine, kerosene なので、ジャグラー同士の会話でも話が混乱することがよくあります。同様にガソリンはイギリスでは主に petrol、アメリカでは gasoline です。

燃料を入れる容器は、きちんと口が閉まる金属容器または耐油性のプラスチック容器で、底が広く安定していて倒れにくいものを使いましょう。ガラス製の容器は割れる危険があるので避けなければいけません。

燃料は必要最小限だけ持ち歩くようにします。燃料を飛行機などの交通機関へ持ちこむのは、危険なうえに法律違反なのでやめましょう。

《道具について》

使う前に、トーチが壊れていないか、ネジが緩んでいないかをよく確かめましょう。不具合があると、火のついたトーチの頭がすっぽ抜けて飛んでいくおそれがあります。観客の中へ飛びこんだら大変です。

ファイヤーディアボロは、道具の性質上、落としたときに転がって行く距離が長いので、使う場所をよく考えましょう。

《消火のための備え》

まず、一人で火を使うのは避けましょう。自分の服に火が燃え移ってもすぐ気付かないことがありますし、気が付いたとしても、簡単には消せません。必ず複数人で。

小さな火は、厚くて大きなタオルや毛布で覆えば消すことができます。必ず用意しましょう。それとは別に、こぼれた燃料を拭くための小さなタオルも必要です。

大きな火を消すために消火器を用意します。大げさに思うかもしれませんが、万一の場合を考えれば必要です。また、使う必要がないとしても、消火器が用意してあれば、周囲との無用のトラブルを避ける事ができるかも知れません。

小さな火に対して消火器を安易に使うと、薬剤で周囲が汚れますし、薬剤を誤って吸い込む危険もあります。しかし、火が大きくなった場合など、使うべきときはためらわずに使うべきです。

《鎮じるときの注意》

自分の服装に気をつけましょう。化学繊維は燃えやすい上、溶けて肌に張り付いたまま燃え続けるので、ひどい火傷を負う危険があります。

観客の服装にも注意を払う必要があります。特にアクリル毛糸のセーターは簡単に火が点くので、そのようなものを着ている人を最前列に座らせたり、ボランティアに選んだりするのは避けるべきです。（自宅での料理をするときにも、着ないようにしましょう）

燃料をトーチの灯心に含ませたら、燃料容器のふたをしっかりと閉じ、十分に離れた、誰かにつまずかれる恐れのない場所へ容器を移します。

トーチの灯心に余計な燃料が含まれていると、ジャグリングをしたときの遠心力で周辺に飛び散り、燃料が本人や周辺に降りかかります。火を点ける前に、トーチの灯心を下に向け、よく振って余分な燃料を振り落とします。

トーチの灯心部分を燃料にどっぷりと浸し、その後で必死になって余分な燃料を振り落としている人をよく見かけますが、これは良くありません。たくさんの燃料が地面に振りまかれて危険ですし、環境にも良くありません。

ショーの場合にはそれまでのショーの流れが途切れて観客の気がそれてしまいますし、何度も何度も燃料を振り落とすのは観客から見るとけっこう見苦しい動作です。

Charlie Dancey は、燃料を計量カップのような容器に移して灯心の上から少しずつ注ぎかけ、あまった最初の一滴滴が垂れるところで止める方法を著書の中で勧めています。

下には、垂れた燃料を受けの別の容器を置きます。慣れれば必要な燃料の量が分かり、手早くできるようになるはずですが。

燃えているトーチや消えたばかりの熱いトーチに燃料を注ぎ足すのは危険です。灯油より引火性の高い燃料での危険は言うまでもありませんが、引火しにくい灯油でも、熱せられれば蒸発が早まって引火しやすくなります。必ず火を消し、しばらく冷ましてから燃料を補給してください。

《火吹きはやめよう》

トーチ・ジャグリングの延長で、火を吹く芸をやりたいくなる人もいますが、

火吹きはするべきではありません。

理由は以下の通りです。

まず、誰でも考える通り、火傷の危険があります。火を吹いた瞬間に風向きが変われば、火の玉が自分に向かってきて確実に火傷をします。ましてや、口の中に残っている燃料に引火したらただではすみません。万一、肺の中まで焼ければ、最悪、死にます。

次に燃料の毒性の問題があります。燃料には多かれ少なかれ毒性があり、口の粘膜から吸収されたり、誤って飲みこんだりすれば体に害があります。つまり、中毒になったり、脳神経系や肝臓に悪影響が出たり、癌を誘発したりします。

燃料には、燃えやすくしたり、煙などを少なくするためにいろいろな化学物質が混ぜられており、口に入れてもまったく無害で安全な燃料などというものは、実際的には存在しません。そして、毒性が強い燃料もいくつかあります。

さらに、燃料を口に含んでいるときにむせたり、誤って飲みこんだ燃料を吐き出そうとしたりして、燃料が肺に入ると、化学性肺炎を起こし、呼吸が困難になり、死なないまでも長期間入院する事になります。

これらの危険を考えると、面白半分で火を吹いたり、安易にうけを狙って火を吹いたりするべきではありません。経験を積んだ人に教われば、ある程度は危険を減らせますが、危険をゼロにすることはできませんし、教えてくれることがすべて正しいという保証もありません。

《その他いろいろ》

まず、クラブがろくにできないうちにトーチに手を出すのは無茶です。基礎を固めましょう。また、トーチの経験がないのに、いきなり暗いところでやるのも無謀です。まず、昼間に練習しましょう。

クラブで確実にできない技をトーチで演じる必要はありません。見る立場からすると、同じ失敗でもクラブよりトーチの方が「あ、失敗した!」という印象が強くなります。

トーチを使っていることで、すでに十分な効果があるので、そこでわざわざ難しい事をして失敗することもないでしょう。

時、場所、状況をよく考えましょう。燃えやすいものがあるところでトーチをジャグリングするのは論外として、他にもいくらでも制約となりうる条件はあります。

これはもう、常識と想像力を働かせてくださいとしかいえないでしょう。たとえば、ある場所で誰かがトーチの火でなにかを燃や

したり、火を使ったこと自体が問題になったりしたために、その場所でジャグリングやその他のパフォーマンスができなくなれば、その人だけの問題ではありません。

火を扱い慣れてくると、どのぐらいまでなら安全かという感覚が掴めてくると思います。その感覚は大事なものですが、だからといってそれに慣れてしまって鈍感にならないでください。あなた自身が安全だと思っていなくても、あなた以外の一般の人にとっては、「火は危険なもの」なのです。

たとえば、燃えているトーチを落したジャグラーが「しばらくならそこに落ちていても大丈夫」と判断していても、周りに居る人(特に、その場所に責任のある人)の方は血相が変わっている、ということはありませんし、そういう状況を実際に見たこともあります。

この場合、「普通の人の感覚」の方が正しいのです。

実際には危険がなかったとしても、トラブルが起きれば損をするのはジャグラーの方です。また、ジャグラーが安全だと思っていなくても、自分の家や店のすぐ前や自分の子供の目の前で火が燃えているトーチをぞんざいに扱われて、いい気持ちができる人はいないでしょう。

「普通の人の感覚」を忘れないでください。

《終わりに》

この文章は、火の使用を勧めるものではなく、「火を使って明らかに危険な事はしないで欲しい」という動機で書かれたものです。

一方的に「火を使うな」と言っても、火を使いたい人を止められるわけがありませんし、そこまで言うつもりもありません。それなら、情報がないまま見様見真似で火を使って問題を起こす人が出てくるよりも、「やってはいけないこと」を広く知らせ問題の発生を防ぐ方が有益だという考えに基づいています。

したがって、この文章の内容がもとで、あなたが怪我をしたり、他の人に損害を与えたりしても、筆者および JugPal は一切責任を負いません。また、この記事に書かれていることがすべて正しいとは保証しません。

火を使ったジャグリングをするならば、なるべく多くの経験者から話を聞き、十分な情報を集めた上で、自分の責任で行なってください。ここに書いた必要最小限の安全知識以外にも、火を使ったジャグリングに関するコツやノウハウはいろいろあります。

《参考文献》

この記事を書くにあたり、ジャグラーや他の人々によって書かれたいろいろな文献、インターネットの rec.juggling で過去に繰り返されてきた議論を参考にし、間違いがないであろうと思われる、安全サイドに振った最大公約数的内容を取り上げました。

参考にした文献は、以下の通りです。

Charlie Dancey 著 Compendium of Club Juggling
Daniel Holzman 著 The Juggler's Little Instruction Book
Eric Bagai 著 Fire Safety for Jugglers
<http://www.foreworks.com/fire.html>
<http://juggling.co.nz/firesafety.htm>
<http://www.renegadejuggling.com/> のトーチに関するFAQ
<http://www.juggling.org/help/torches/>



ミーハー日誌

【DioさんとJさんと】

《はじめに》

5月のとある夕暮れ時、私は渋谷駅でドキドキした気持ちで人を待っていました。こんなにワクワクした気分で人を待つなんて、滅多にないことです。
待ち合わせ時間に、「Dio(ディオ)さんと」J(ジェイ)さんはやって来ました。(ん～、思った通りカッコイイ青年たちです)
その後3人はとあるレストランで食事をしたのですが、以下DioさんとJさんを紹介すると共にその時の様子をお話しましょう。

(注)以下、Dioさんは「Dio」、Jさんは「J」と記させていただきます。

《Dioについて》

1993年 :パフォーマンスデビュー。
1997年 :国内の47都道府県全ての主要都市でのパフォーマンスを達成。
1998年 :台湾で縦断ツアーを決行。
1999年 :アメリカに渡り、ストリートを含めサーカス団で活躍。
2000年 :これまでの集大成ともいえる『Dio Tour 2000』の活動中で、国内の他アメリカ、台湾で公演予定。現在はアメリカも活動拠点とし日米間を往き来している。
またピエロファクトリーというパフォーマンスによるボランティアチームを設立し、「子供たちの夢、守ってあげよう」を目的にサーカス曲芸を指導したり、全国の幼稚園・保育所・孤児院などを訪問したりと、積極的にボランティア活動にも貢献。(なおピエロファクトリーの現在の代表者はDioの弟・チャーリーさん)

《Jについて》

1988年 :マイムを始める。
以降マイム、ダンスの公演など舞台を中心に活動。
1995年 :「シリウス(SIRIUS)」を結成。
その時期にハットジャグリングと出会う。
1998年 :「J」を芸名とし、ソロとしても活動開始。
特にハットジャグリングは最も得意なトリックで第一人者。シリウスとしては、ジャパンカップにおいてチャンピオンとなる等「大道芸ワールドカップ IN 静岡」ではすっかりお馴染み。TV等でも活躍中。

《3人で》

Dioは、Jと私とは面識はないものの、2人(J、私)とは時折メールのやりとりをしていて、今般アメリカから帰国するという機会に会いましょうと2人に声をかけて下さいました。
つまり3人はお互い会うのは今回が初めてでした。

このビッグアーティスト2人に、何故か中年のおじさん(私)が交じっての会食となったわけですが、おじさんは楽しくて楽しくて下戸のくせに飲むわ飲むわ、食うわ食うわで4時間もお二人を「監禁」してしまいました。(ヒシクもの)

話題は、お二人の活動内容、ジャグリング・サーカス・マジック等アート全般、芸人仲間の噂話、ファンにまつわるエピソード、業界内での問題点、国内と海外の差、プロとアマチュア、ホームページ等々・・・パフォーミングアートに関わる内容で盛りだくさんでした。



J(左)とDio(右)

Dioはサーカスアーティストとしての活動からジャグリングはもとより、空中ブランコ等の空中芸、綱渡り等のバランス芸など、幅広くアクトを習得されています。一方Jはご自分でも仰られています、一つのことを集中的に深く深く追求するタイプとのこと。

それぞれ自分の個性を生かした活動をされているようで、お話を聞いて、お二人の芸に対する真摯な態度、確固たる信念、そしてその取り組み方にいたく感心しました。

この世界もいろいろ課題は多いのですが、お二人の力強い眼の輝きからすれば、先は明るいゾと感じた次第です。
ご両人の今後の益々のご活躍を期待しています。

《後日談》

実は会食の時は楽しさのあまり聞きたいことをすっかり忘れてしまい、帰ってからメールで質問したところ快く回答を頂きましたので、ご了解の上でここに紹介いたします。

Abe ;
アーティストは観客に夢を与えると同時に、自らが夢を追い求める「夢追い人」だと思うのですが、ご両人が抱く夢とは何でしょうか。

Dio ;
僕は欲張りなのでここには書ききれないくらい多くの夢を持っています。
追いかける夢、空想を楽しむ夢、ふと思いつく夢などいろいろあるのですが……

あっ! そうだ
僕はこの夢を考えている時が一番幸せを感じる時間なので、この時間を楽しみながら人生を過ごすのが夢ですね。
死んでいくときも、これからどこに行くのだろうと空想しながら夢を持って死んでいければ最高じゃないですか。

J ;
世界一(笑)。
自分で考えて自分で成し遂げていかないと気が済まないタイプらしいので、不器用でも、時間がかかっても、自分で納得できるパフォーマーになりたいと思っています。

Abe ;
もう少し現実的な話として「目標」を教えていただけませんか。
例えば短期的な目標、中期的な目標、あるいは長期的な目標など、差し支えない範囲でお教えいただけませんか。

Dio ;
曲芸師やサーカスプレイヤーとしてではなくエンターティナーとしていろいろなことに挑戦していこうと思っています。

ショーに関しては、日本では曲芸師やサーカスプレイヤーといったジャンルに分類され技の披露だけのショーになりがちなのですが、これからはお客さんを楽しませるという事を第一に考えたショー作りをしようと思っています。

曲技をまったく使わないショーとか、その場の状況をテーマとしたショー、時には技がけにこだわったショーなど、曲技も表現方法の中の一つの手段として使っていけたらいいなと思っています。もちろん、曲技の方のレベルが下がったと言われぬように練習も今まで以上に頑張っていくつもりです。

それ以外では、ミュージカルやお芝居にも挑戦していきたいですね。

参考

DioのWebSite :<<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Stage/3362/indexjp.htm>>

JのWebSite :<<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Theater/7791/menu.html>>

チャーリーのWebSite :<<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Kouen/5822/indexC.htm>>

J ;
Dio になる(笑)。
今回「不思議な」出会いをしたわけですが、出会うべくして出会ったと思っています。

ようやくソロとしての活動が始まったようなものなので、興味のむくまま、国にこだわらず、色々なところへ行きたいと思います。
とりあえず、秋になったらDio の家に遊びに行く(笑)。

Abe ;
今後の活動予定として、Web 上で公開していないような追加事項がございましたらお教え下さい。

Dio ;
今年は夏に哈哈雑技団への参加、秋にはアメリカのサーカススクールでの練習などといった海外での活動が多いのですが、こまめに日本へ帰り各地をチャリティーで回りたいと思っています。

J ;
今のところ特には...ないかな。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

イベント情報

キット・サマーズ・ワークショップ

"The Juggling with Finesse Workshop"
講師 :キット・サマーズ
月日 :6月17(土),18(日)
場所 :大阪大学豊中キャンパス健康体育部体育館
費用 :11,000円(2日間)、6,000円(1日のみ)
(以前参加された事がある方は2日間8,300円、1日のみ5,000円)
募集 :30名
詳細 :
<<http://hb3.seikyoku.ne.jp/home/morisan/patio/kit/workshop.html>>
連絡 :森俊行
E-mail :<morisan@mb3.seikyoku.ne.jp>
Tel&Fax :0726-76-3978

Cru Cru Cirque

出演 :立川真也,藤居克文,高橋徹 他
月日 :6月17(土)19:00開演、18(日)15:00・19:00開演
場所 :スタジオPAC(東京都練馬区)
料金 :2,500円(前売),2,800円(当日)
連絡 :PAC
Tel :03-3993-9418/Fax :03-3993-9559
E-mail :<pac@xes.co.jp>

Kaja ソロショー 『3Dラジオサーカス』

出演 :Kaja
月日 :6月29日(木)19:30開演
場所 :planB(東京都中野区)
料金 :1,500円
連絡 :ACC
Tel :03-3403-0561/Fax :03-3403-1583
E-mail :<accircus@mail3.alpha-net.ne.jp>
コメント :今までイギリス,アイルランド,アラビア,ベルギー,ノルウェイなどいろいろな国を回りました。自分なりのサーカス芸を求める、初のソロライブ決行!



Kaja 『3Dラジオサーカス』

上海雑技団「百戯春秋」
月日 :6月12日(月)14:00・18:00開演
場所 :よこすか芸術劇場 (Tel :0468-28-1602)
<<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/theatre/>>

JJF2000
日本ジャグリング協会主催によるジャグリングフェスティバル。8月下旬大阪地区にて開催予定。(詳細未定)
日本ジャグリング協会事務局:
板橋区仲宿 53-4-305 (〒173-0005)
Tel&Fax :03-3579-5779
E-mail :<info@juggling.gr.jp>
WebSite :<<http://www.juggling.gr.jp/>>



提言

【ジャグリングとお手玉】

はじめに；

プロ・アマを問わずにジャグラーは、演技中によく「お手玉」という言葉を口にします。

かく言う私も「ではちょっと変わったお手玉をお見せします」なんて口上を入れてボールジャグリングを披露したりすることがあります。

また私にとっては少々違和感があるのですが、パフォーマーの中には「棒のお手玉」と称してクラブジャグリングを演ずる方もいます。

一般的に「お手玉」というと、中に小豆等が入った布製の小袋を使って、おばあちゃんが孫娘と一緒に、あるいは女兒同士が遊ぶいわゆる「伝承遊び」を思い浮かべるのではないのでしょうか。

でも私が男性ということもありますが、昭和30年生まれのものでそんな光景は見たことはないし、遊んだこともないし、いわんや私より若い世代の人は遊具としてのお手玉自体を見たことも触ったことも無く、お手玉遊びなど未経験の人がほとんどではないのでしょうか。

にも関わらずにジャグラーの間で「お手玉」という言葉が一人歩きするのは個人的には気になるので、自戒の意味を込めて「ジャグリングとお手玉」について考えてみます。

「おてだま」は全国的に共通した名称で、地方により呼び名が様々で150以上もの別称が確認されていますが、遊び方に関しては、主に「取り」と「突き」の2つに大別することができるようです。

「取り」は、適当な数のお手玉を床の上にまき、1個を空中に投げ上げ、それが床に落ちてくる間に、床のお手玉をいろいろな方法で順次拾い上げるもので、床に座った姿勢で行います。

「突き」は、ジャグリングのように複数のお手玉を片手または両手に取り、それぞれ交互に投げ上げ、落とさないように受け止めるもので、2人でパッシングのようにやりとりする遊び方もあります。

しかし注目すべき点は、この遊びには最初から「取り」と「突き」があったわけではないということです。

お手玉は古くは「いしなご(あるいは、いしなどり)」と呼ばれ、平安時代には遊ばれていたことがわかっています。ただしこれはあくまで記録の上での話ですから、実際はもっともっと古くから遊ばれていたと考えられます。

遊具として何を使ったかは、時代の流れと共に変わっていきませんが、小石に始まり、木の実・貝殻の類、そして江戸時代には布製の手玉が作られ、それにともない遊び方が多様化・複合化され多彩なものとなりました。

さて「いしなご」ですが、これはお手玉の原形ともいえ、文字通り小石を使った単純な遊びで、「取り」を主体にした、つまり小石を地面にばらまいて何らかのルールの元で拾い上げるという遊びでした。

このような遊びは、ごくごく自然発生的に子供達の間で創作された遊びと考えてもおかしくはないでしょうし、事実このような遊び方は世界的規模で見られ、素材としても小石、貝殻、動物の骨、種など様々な物を用いルールも非常に似通っているという特徴があります。

では「突き」という遊び方はどういった経緯で考案されたのでしょうか。

それを考える前に、「品玉(しなだま)」について知っておく必要があります。

品玉とは、弄玉、飛玉、跳剣などとも言われ、手玉や短刀を空中に投げ上げて、これを巧みに受け止める曲芸のことです。今で言うジャグリングそのものにあたります。

奈良時代に雑戯と呼ばれる大陸の芸能(軽業、曲芸、物まね、幻術などを中心とする娯楽の見世物)として中国から伝来し、日本では散楽のなかの一曲として盛んに演じられました。ちなみにこの散楽は庶民を対象に自由に発育し、後世の民衆芸能の源泉となります。

平安時代あたりからは勧進興業が行われるようになり、放下師が寺社の境内や町の辻など決まった敷地内で金銭を受け取って芸を見せる、いわば見世物のはしりが出てきます。

品玉はそのうちの芸の一つにあたりますが、これらのお手玉は遊びとして行ったわけではなく、曲芸的技を披露し、食うためのいわば生業(なりわい)としての見世物として位置づけられます。

さて話は戻り、「突き」がお手玉遊びに採用された経緯についてですが、2つ考えられるのではないのでしょうか。

一つ目は、何らかの手玉があれば、それを空中に放り投げてそれを受け止めるというしくさ、そして1個がやがては2個と増えていくのは、遊びの発展形態としてごくごく自然なことから考えられます。つまり遊んでいるうちに「突き」という新しいルールが出てきた。

二つ目は、庶民が見世物でのこうした曲芸を見て、曲芸の動作を遊びとしてお手玉に取り入れていった。

恐らくどちらの可能性も否定はできないでしょう。

しかしいずれにせよ、日本においてはジャグリングのような曲芸は、明らかに中国からの渡来によるものがほとんどと言えますが、お手玉遊びに関しては「いしなご」のような「取り」系が先にあり、「突き」系はその後に発生し、やがて遊びの中で統合されていったと考えられます。

さらに言うならば、お手玉遊びは品玉(ジャグリング)の影響を受けたかもしれませんが、逆に品玉(ジャグリング)はお手玉遊びの影響を受けずに単独に発祥し発展してきたように私には思えます。

お手玉遊びもボールジャグリングも技術的な面やその効用に関しては共通点多々あるので、お手玉遊びもジャグリングの範疇として位置づけることには異論はありませんが、お手玉は「遊び」として、ジャグリングは「生業の芸」として発祥したことを考えれば、区別して考えても良いのではないのでしょうか。

技術面で共通点があると書きましたが、遊びの中で行われ伝承されてきた技と、人前で見せて食うために考案され発展してきた技とは、おのずと比較にならないほどの差が出てきます。

お手玉遊びの「突き」では、せいぜい3ボールのシャワーやカスケード、あるいは片手2個ずつのファウンテンあたりが一般的で、ジャグリングと見比べればその差は歴然です。

もうひとつの特徴として、「取り」にしろ「突き」にしろお手玉遊びにはお手玉歌(数え歌)が欠かせません。特に「取り」では歌詞の意味に従い動作をするので、傍目に見ても非常にリズムカルで楽しく親しみやすい遊びになっています。

反面ジャグリングにはお手玉歌のような叙情的な要素はないし、高度な技術はおばあちゃん(老年者)や孫娘(年少者)にとっては敷居が高いでしょう。

どちらが良い悪い、優れている劣っているというのではなく、2つは別物と意識し、ジャグリングという言葉も一般化してきているので、もうそろそろ「お手玉」という言葉は卒業して「ジャグリング」あるいは「ボールジャグリング」と言うべき時期に来ているのではないのでしょうか。

それは「ジャグリング」の適切な訳語が無い以上、「ジャグリング」という言葉を観客に知ってもらうという意味もありますし、お手玉遊びを知らない人がボールジャグリングを見て、それをお手玉遊びそのものと取り違えてしまう恐れもありえるからです。

最後に少々話は ずれますが

お手玉遊びの普及・保存、そして世代や地域を越えた交流を目的とした「日本のお手玉の会」(平成4年9月発足)という素晴らしい組織があります。

[連絡先]
日本のお手玉の会
(〒792-0811)
愛媛県新居浜市庄内町 1-13-14 アメニティハウス
Tel&Fax :0897-36-0600
WebSite :<<http://www.shikoku.ne.jp/otedama/>>

本会では活動の一環として毎年「全国お手玉遊び大会」なるイベントを開催しており、その中の催し物の一つとして競技会があります。

競技内容は「ヨセダマ式(ヨセダマとは取りにあたる)」と「ナゲダマ式(ナゲダマとは突きにあたる)」に分かれています。ナゲダマ式ではジャグラーが参加すれば上位入賞あるいは優勝は間違いありません。

何故なら前述したように芸能としてジャグリングを練習している人の「突き」の技術は、遊びとしてお手玉を楽しんでいる人の技術の比ではないからです。

しかしジャグラーが「ナゲダマ式」競技会のみに参加することは、あたかも実業団陸上部が親睦を目的とした町内会の運動会に参加し、徒競走という得意種目のみ出場するようなものではないのでしょうか。そんな気がします。

この競技会の趣旨が分からないので、これ以上のことは何とも言えませんが、釈然としないものが残ります。

参考文献等：
・童遊文化史 - 考現に基づく考証的研究 - 第1巻
(半澤敏郎/東京書籍)
・図説江戸芸能 - 江戸の見世物 -
(古川三樹/雄山閣出版)
・『ネット@百科@Home』
<<http://ds.hbi.ne.jp/netencyhome/>> による語句検索

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

編集後記

様々なアート公演を観たり、アーティストの方々とお会いしたりして思い起こすのは、夢、情熱、創造、根気といった、今の時代では死語となりつつある"熱い"言葉の数々です。

もちろんプロのみならずアマチュアにも"熱い"人はいます。そんな人たちの"熱"をこのジャグバルから感じとって下さい。(ただしヤケドをしない程度に)

近況

4月下旬からゴールデンウィークにかけては歓喜の声をあげていました。
なんせこれだけのアート(以下)を短期間に凝縮して観ることができ、何てハッピー！
毎日毎日違った夢の世界に案内してくれたアーティストの皆様に感謝いたします。
(でも私がかももっとも感謝しなければならぬのは . . . そりゃ興さんでしょ)

- 4月20日 :Kaja, ジョリジュリ企画, ナナナ, タック, さわめちから, 小出直樹, キシタカ, 重森一, 三雲いおり, Mr.DAI, ハンガーマン, ましゅ & Kei (SUMIDA国際フル祭/シアター)
- 4月22日 :TOONS, 王健&アリ, 吉本大輔, ポンタ (野毛大道芸/横浜MM21, 野毛地区)
- 4月23日 :サンキュー手塚, Mr.アパッチ, モスクワブラザーズ, ニルス・ポール (野毛大道芸/野毛地区)
- 4月25日 :BPズーム (SUMIDA国際フル祭/曳舟文化センター)
- 4月28日 :あらい汎と立川真也 (SUMIDA国際フル祭/シアター)
- 4月28日 :ジュリアン・シャグラン (SUMIDA国際フル祭/シアター)
- 4月29日 :フランチ・ハラレイ (マジック公演/国立代々木競技場第二体育館)
- 4月30日 :ノーラ・レイ (SUMIDA国際フル祭/シアター)
- 5月3日 :K&Pデビッド・クレイパッチ (ストリート/横浜MM21)
- 5月5日 :ランス・パートン (マジック公演/東京国際フォーラム)

ジャグバルは私という個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行しているものです。従って特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係しておりません。

ジャグバルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)
紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebSite : (ジャグバル) <http://homepage1.nifty.com/abesan/>

編集発行人 : 安部保範
住所 : 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)
E-mail : abesan@bf.mbn.or.jp Nifty : QGB02014
WebSite : (見世物広場) <http://plaza4.mbn.or.jp/~chansuke/>



特別寄稿

【オリジナルであるために】

by ダニエル ホルズマン Daniel Holzman
西川正樹 (訳)

私はカリフォルニアで生まれ、13 歳でジャグリングを始めました。

カルロ Carlo というジャグラーが書いた本を読んでジャグリングを学びましたが、それから3年近くの間は独学で、他のジャグラーに会ったことさえありませんでした。

周りにジャグラーがいなければ影響の受けようもなく、その結果、他の人とは違ったスタイルを身につけ、何十もの技を自分で発明することになったのです。

地域のジャグリングクラブに参加したり、ジャグリング大会に出かけて行ったりするのは、技を覚えるのにとってもよいことです。しかし、他のジャグラーの真似をするだけで終わらずに、自分の創造力を働かせることはとても大切です。

「他の人と違う、オリジナルである」ということは、芸としてのジャグリングの価値を高め、ジャグラーとしてのあなたの個性を育みます。

もし、あなたがプロのジャグラーになろうとするのであれば、「他のジャグラーと違う」ことはものすごく大切なことです。

オリジナルのルーチンを作り出そうとする過程で、プロ・ジャグラーの多くは、ヒントを得るためにジャグリング以外の世界へ目を向けます。

たとえば、ダン・メネンデズ Dan Menendez は、映画「ビッグ」の中のダンスシーンからヒントを得て、弾ませたボールでピアノを弾くルーチンを生み出したのだと教えてくれましたし、ジャグリングの天才マイケル・モーション Michael Moschen は、初めての赤ちゃんを抱く奥さんの様子を見たのがきっかけで、クリスタル・ボールを使ったコンタクト・ジャグリングのアイデアを思いついたと言っています。

おもちゃ屋やスポーツ用品店を見て歩き回って変わった道具を探すのは創造力を刺激するのによい方法ですし、いろいろな種類の音楽を聴いたり、いろいろな芸術に触れたり、劇場へ足を運んだりするのも、新しいジャグリング・ルーチンを思いつくためには有効です。

昔のジャグラー達に関する本を読むのも、とてもためになります。昔のジャグラー達が演じた彼ら独自の芸をひとひねりすれば、現代の観客にうける新しい芸を作り出すことができるのです。

私は、1900年代初頭に活躍したジャグラー達について調べるのがとても好きです。中でもお気に入りには、Rastelli, Kara, Adonis, Salerno などです。

彼らはすべて偉大なジャグラーでした。でも、彼らの演じた技に関しての記録を読むと、実際よりも誇張して書かれていることも時々あります。

もし、ジャグリングのルーチンに笑いの要素を付け加えたいのなら、スタンダップ・コメディ*の芸人と、チャーリー・チャプリン、バスター・キートン、ジャッキー・チェンのようなダタバタ喜劇の達人の両方を見ることをお勧めします。

また、毎日の新聞を読んで時事ネタを仕入れておくとともに、演劇や即興のレッスンを受けて舞台での存在感をふくらませるように心掛けましょう。

あなたがこの短い文章を読んで、自分のジャグリング・ルーチンにもっともっと創造性とオリジナリティを加えようと考え始めてくれれば幸いです。

最後に、ジャグリングに関する創造力を引き出す5つの練習問題を出して締めくくります。

練習問題 1) ジャグリングをする道具として危険な物を10種類以上挙げなさい。

練習問題 2) ボーリングボール以外に、ジャグリングの道具として使える大きい物、重い物を10種類以上挙げなさい。

練習問題 3) リンゴを食べるのと同様に、ジャグリングをしながらできることで、観客が見て楽しいものを1つ挙げなさい。

練習問題 4) 10人の有名人を思い浮かべ、彼らがジャグリングしそうなものを考えなさい。
例) バーベルをジャグリングするアーノルド・シュワルツェネッガー

練習問題 5) 卵のように、ジャグリングすることが可能なもので、壊れやすいものを10種類挙げなさい。

* 訳注) 舞台のマイクの前に芸人が一人で立ち、しゃべりとジョークだけで観客を笑わせる芸能。日本で類似のものを持つなら漫談であろうか。

筆者紹介 訳者 西川正樹

2人組のプロ・ジャグラー、ラスピニ・ブラザーズ Raspyni Brothers として、相棒のバリー・フリードマン Barry Friedman とともに全米各地で活躍しています。

ジャグリング界の教育活動にも熱心で、IJA のフェスティバルには毎年参加し、いろいろなワークショップで教えています。

著書として、ジャグラーのためのヒントや心得 300 条を書いた The Juggler's Little Instruction Book がありますが、残念ながら絶版だそうです。

今回、たまたま同書の件で問い合わせたところ、JugPal のために記事をかいてくださるという思いがけない申し出をいただき、執筆していただきました。

他に、観客を楽しませるさまざまな小技をまとめた The art of Showing Off というビデオもあり、Dube などから入手することができます。

Raspyni Brothers のウェブ・サイトは <http://www.raspyni.com/> です。

なお、来日してワークショップを開催する意欲もあるそうです。ワークショップの準備を手伝ってくださる方がいれば、訳者 西川正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp> まで連絡をください。